

## 世界のモモ・ネクタリン市場

FreshPlaza 2023年6月16日

世界の核果類(モモ、ネクタリン、フラットピーチ)市場は、一部の産地で天候が悪いものの、多くの国で順調なスタートを切っている。オランダでは、スペイン産核果類のシーズンは遅れて始まったが、モモ、ネクタリン、フラットピーチの供給は徐々に改善した。フラットピーチの販売量が近年急増しており、モモの需要に影響を与えている。ベルギーでは引き続き天候の問題があり、品質の良い核果類が入手しにくく、価格が上昇している。ドイツでは、スペイン産の核果類が市場を支配しており、イタリアからの輸入品がそれに続いている。イタリアの生産者は大幅な減収を予想しているが、スペインでは今年は収量が多い。フランスの流通業者は依然としてスペイン産の核果類を好んでおり、国内産のモモの取り扱いが遅れている。トルコではモモとネクタリンの出荷量が増加しており、輸出需要と国内消費のニーズを満たしている。南アフリカでは、豊富な降雨量の恩恵を受けて、モモとネクタリンの実り多い季節を期待している。中国の国内産のモモは、施設の近代化により安定した味と品質を確保している。北米では、依然として天候の問題によりモモとネクタリンの供給が制限されており、価格の上昇につながっている。スペイン産の輸入品が多く出回っており、競争力のある価格を提示している。(以下一部省略しました。)

### オランダ：供給開始に遅れ フラットピーチが足場を固める

今年のスペイン産核果類のシーズンは、やや遅れて始まった。輸入業者らによると、スペインからのモモ、ネクタリン、フラットピーチの供給は先週末に順当なスタートを切り、現在ギリシャ産の供給がそれに追加されている。過去には供給過剰が時折見られたが、現在はそのようなことはなく価格は安定している。オランダの輸入業者らは、フラットピーチの売り上げが近年かなり増えており、その分モモが減っていると言う。プラテリーナ品種(フラットネクタリン)ではそのような伸びは見られず、ネクタリンはシェアを保持している。

### ベルギー：天候の問題が引き続き影響

ベルギー市場ではスペイン産核果類の供給が回復しているが、国内産は依然として天候の問題がある。ある業者は、「先週は状況がわずかに改善したが、それでも高品質の核果類を入手するのは依然として難しい。水の供給確保に関する問題は引き続き深刻である。先週は雨が降ったが、集中的な降雨では水問題の解決にならない。雨水はすぐに流れ出てしまうが、それは求められていることではなく、地面に浸透する時間が必要だ。その結果、この時期としては依然として核果類の価格が高く、販売面で消費者の障壁となっているようだ」と述べた。

### ドイツ：核果類に強い需要なし

連邦機関によると、スペイン産の核果類がドイツ市場を支配しており、イタリア産の核果類が重要性の点でそれに続いていた。若干のトルコ産とギリシャ産が補足的に輸入されていた。フランス産はケルン市の市場でのみ見られた。一般的に関心は特に高くなかったが、特段の問題もなく需要を満たすことができた。価格はおおむね下落傾向にあったが、一部で上昇もみられた。特に、取引先に人気のあるAAサイズは価格が上昇した。フラットピーチとプラテリーナは、その非常に魅力的な食味のおかげで十分な注目を集め、ベルリンでは良いペースで販売された。

### フランス：国内産よりもスペイン産が好まれる

2023年6月1日現在、今年のモモとネクタリンの推定生産量は22万8,700トンと見込まれる。この水準は、昨年及び過去5回の収穫(2018~2022年)の平均に近い(+1%)。5月末には雹を伴う嵐がオクシタニー地域圏(フランス南西部)の盆地にある産地を襲った。それらの正確な影響はまだわかっていない。PACA地域圏(南東部)では、最近の降雨により収穫前の干ばつのリスクは限定的で、ルシヨン地域(PACA地域圏のうち)では、年初から観測されていた水不足が軽減された。収穫が早かった昨年と比べ、今年は少し遅く始まると見られる。生産量は、2022年の生産量及び過去5回の収穫の平均を超えると予想される。ローヌ地方(南東部)では、5月に強風と降雹があり、出荷量は前年比で減少した(-14%)。収穫の開始は2022年よりわずかに遅れると予想される。市場に関しては、需要は強いが、フランス産の入荷が早くても、流通業者らはスペイン産を好むため、フランス産のモモの取扱いは遅い。

### イタリア：スペイン産の供給により価格が下落

イタリア北部のある業者は、モモとネクタリンの市場がわずか数日でどう変化したかを説明する。その業者は、第23週の終わり(6月上旬)までは価格が高く、カゴ入りのものでも1.60ユーロ/kgで、大玉では価格がもっと高かった(例えば2.30ユーロ/kg)と言う。その後、翌週の初めにイタリア南部とスペインの両方から市場に入荷する果実が増え始め、これによって価格が下落した。この業者は、販売量はあまり多くないが、いずれにせよスペイン産によって価格が決まる、それは量と価格競争力の点でスペイン産が重要なためだと言う。スペインの一部の地方では気温が非常に高く、多くの果実が同時に熟したため、出荷量が多い。

### トルコ：出荷量が増加中

トルコのモモとネクタリンの総出荷量は、より多くの生産者がこの作物に目を向けているため増加している。トルコでは年平均80万トンのモモとネクタリンが生産されており、今シーズンの収量は平年並みのようである。詳細において最も重要なことは、生産者が中早生から晩生の品種の出荷において、計画的で適切な出荷戦略を実行しているため、果実は予定どおりに収穫され、供給が過剰になることなく、需要に即した輸出と国内の消費に対応していることである。トルコ産のモモとネクタリンの主な輸入国は、ロシア、ドイツ、ウクライナ及びブルーマニアである。包装と果実の品質の面で極東諸国に目を向ける輸出業者は多くないが、これらの国々ではトルコ産果実の需要が高まっている。

### 南アフリカ：良い季節が期待される

南アフリカのモモとネクタリンの大部分が栽培されている西ケープ州では、局地的な洪水が起こるほどの雨が降っている。ある核果類の生産者は、「現在は適度の雨と雪が降っている。これまでのところ、5月と6月はちょうど良い寒さで大変素晴らしかった。着果に非常に適しており、冬から来春の初めにかけてこのような寒さが続けば、モモとネクタリンは豊作になるだろう」と言う。

あるスーパーマーケットのバイヤーは、モモとネクタリンはスペインから輸入されており、学校に持参するランチ用のネクタリンの需要は常にあると述べている。最も早い輸入もののモモとネクタリンが入荷し、このバイヤーは、スペイン産の果実はブリックスが12以上あり、黄肉系と白肉系があって、「大変良い」ようだと言う。

南アフリカ産の最後の果実とスペイン産の最初の果実の間には約4か月の間が空き、この間南アフリカではモモやネクタリンがほとんど入手できない。モモとネクタリンの輸入は、8月中旬まで続く。

### 中国：暖かく乾燥した天候の恩恵

国内産のモモは山東省、河南省、山西省、河北省、安徽省で栽培されている。近年多くのモモ産地が近代化された。新型の選別機及び貯蔵施設は、中国産のモモの品質と貯蔵寿命を向上させている。今年のモモの味と品質は安定している。ある生産者は、今年は雨がやや少ないことが、果実の糖度に影響していると述べた。モモはとても甘く、卸売市場でよく売れている。廈門市(福建省)のある業者は、今年は寒さのために春の訪れが遅かったが、モモの成長にはほとんど影響しなかったと述べた。多くのモモの産地で少雨、高温及び十分な日照時間が見られた。こうした気象条件により収量が向上し、一部では出荷が早まった。中国はまた、チリとオーストラリアからモモを輸入している。チリはモモとスモモの主要供給国であり、昨シーズンの供給量は13万5千トンを超えた。

### 北米：供給は依然として少なめ

モモとネクタリンの供給は依然として逼迫している。通常であれば、ジョージア州や南北カロライナ州などからもっと多く入荷するはずであった。しかし、3月の低温が東部の多くの核果類生産州に影響を及ぼした。(サウスカロライナ州ではモモの収穫量は約10%で、価格は今年の2倍になっている。)

西海岸のカリフォルニア州では出荷の開始が遅く、寒い天候のため挽回に苦労している。ある出荷業者は、「果実は肥大してきているが、市場の需要に追い付かない」と言い、また、カナダ向けの果実はスペイン産で、昨年よりもその傾向が強いとして、「運賃が安いのでスペイン産でより競争力のある価格設定ができる」と言う。

供給不足のため引き合いは堅調なようで、現時点では価格は昨年よりも高くなっている。また、輸送費のために通常東部産よりもかなり価格が高いカリフォルニア州産が大部分を占めていることも価格に影響している。